



日本共産党 前都議会議員 そねはじめレポート

2012年 1月25日発行 第29号

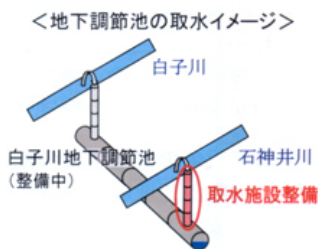
そねはじめ事務所
114-0032
北区中十条2-11-6
Tel:3907-1135
Fax:3906-3225

2015年までに石神井川に20万tの地下調節池を接続 “初の100ミリの豪雨対策”を中小河川で実現!

●「3度めの水害は絶対に防げ」の住民の声届く

1月20日に発表された2012年度東京都予算の中で、短時間の集中豪雨による都市型水害に対応する重点対策として、石神井川につながる巨大な地下貯留施設の建設に100億円の予算が計上されました。

この地下施設は大泉の白子川調節池の縦坑から直径10mの大型シールドマシンで2015年までに約3km離れた石神井川まで目白通りの下をトンネルで掘り、集中豪雨の時には石神井川の濁流が北区堀船に流れる前にかかなりの水量を貯留させることができるもので、短時間の豪雨には大きな効果があります。



●南側の環7地下調節池ともつなげれば100ミリの豪雨に耐えられる

さらに今年7月までには、「100ミリを超える局地的集中豪雨にも対応可能な中小河川整備を推進する」ための方針が出される見通しです。都内はもちろん全国でも「100ミリの豪雨」対策の具体化は初めてです。

善福寺川などの水害防止のため環状7号道路地下を中野区野方まで延びている直径30mの巨大地下調節池を3.5キロ延長して練馬区役所付近で石神井川に接続し、広域の地下調節池を一体で活用できるようにするものです。3度めの水害はどんなことがあっても防いで欲しいという北区住民の声がやっと都にも届き始めているようです。



社会保険病院前に立つそねはじめ前都議



徳島と山梨の社保病院を“9割引”でたたき売り 医療機構発足前に、RFOがかけこみで

12月6日の参議院厚生労働委員会で、共産党の田村智子議員は、せつかく社会保険病院の公的存続の道を開く「地域医療機能推進機構」法が成立したにもかかわらず、その直後にあいついで複数の社会保険病院が超安値で売却されている問題で、政府の逆行姿勢を追及しました。

建設費が141億円の徳島県・健康保険鳴門病院が15億円で、さらに80億円の山梨県・鵜沢病院が7億円で売却・譲渡されようとして

います。田村議員は「事実上の叩き売り」と、きびしく批判し、医療機構への速やかな移行を強く求めました。

おとし鳩山政権の崩壊騒ぎで法案が廃案になったことに懲りた民主党政権が、新たな法案を通すために、公的存続に後ろ向きの自民党などの合意を取りつけようと「3年以内に移行する」との条件が付けられました。

このため社会保険病院は最長3年間、売却目的の組織「RFO」に置かれたままで、RFOは法の実施前に全国の病院を20以上売却・譲渡を考えていると病院側に説明しています。

北区の社会保険病院は、地域住民の公的存続をめざす長年の運動に支えられていますが、売却の危険が絶対にはないとは言いきれません。いったん売却されると、公的な支援とともにしほりもなくなるので、医療機関として経営がきびしくなれば安易に他の目的に転用される危険が高まります。

あらためて北社保病院の公的地位の確立をめざして、地域住民の運動を継続発展させることが重要です。

初の三重の値上げで このままでは75歳以上が2万円超える負担増に?!

値上げ額は後期高齢保険料(8731円)・国保料(798円)・介護保険(推定15000円)

今年の4月に、毎年値上げが続く国保料に加え、2年ごと改定の後期高齢医療保険、3年ごとの介護保険料がいっせいに値上げされる、初めての「トリプル値上げ」が襲ってこようとしています。

1月に入り、後期高齢医療保険料が、都内130万人の75歳以上に対し、平均年8731円の値上げ最終案を決定。また16日の区長会で23区の国保料は平均798円値上げで了承されました。

さらに北区の介護保険料はまだ未定ですが、月額で約3500円から最悪5千円弱まで引上げが予想されます。

今年の値上げ分を比べれば、後期高齢保険が国保料の10倍以上という異常事態です。さらに介護保険料値上げはそのまた2倍以上になりかねません。合計して75歳以上に2万円を超える大幅値上げをおしつけるのは、“おとしよりいじめ”そのものです。共産党区議団先頭に最後まで値上げストップで奮闘します。



都の防災計画説明会に出席のそね前都議

12年度東京都予算① 都民のための防災も福祉もやる気なし

2012年度東京都予算は石神井川などの水害対策や小学校2年生までの35人学級など一定の成果もありますが、予算の最重点は外郭環状道路や環状2号線(築地市場を移転させた跡に臨海部に通ずる道路)など巨大な道路や国の八ツ場ダム建設再開の予算におかれ、都民のための防災の要である住宅耐震助成も、医療・介護・福祉関連も前進はほとんどありません。都営住宅新築は13年間ゼロのままです。

東京都には4千億円のオリンピック基金をはじめ活用可能な溜め込みが9千億円近くあり、税収が減っていても都民要望には十分こたえられます。次回レポートから防災関係予算、医療・福祉予算、大型公共事業・開発予算など、具体的な予算内容を紹介していきます。

そねはじめ交友録<その二十三>

大手メーカーから教師へ、そして議員に 北大サークル先輩の池田公三さん

先日、党内の会議で、昨年地方選で福生市議に初当選した池田公三さんが、立候補からの奮闘ぶりを語っていました。

大学以来の温厚なひとがらそのままに、地域の方がたと生活相談や子どもの遅れた勉強を見る「お助け塾」などでがんばっていました。

70年私の北大入学の日、学内の並木にダンボールに紙を張ってカエルや子どもを描いたみすばらしいポスターを見かけ「これなら僕もできそうだ」と気軽にサークルの扉をたたいた時、中でストーブに石炭をくべていたのが池田さんでした。

彼が紹介した松谷みよ子の「二人のイーダ」古田足日(たるひ)の「ぬすまれた町」山中恒の「とべたら本こ」などを市立図書館で読んでみごとにハマリ、児童文学と人形劇にどっぷり漬かった大学生を送りました。

池田さんは、北大経済学部を卒業後、大手自動車メーカーに勤務しながら私たちと人形劇サークルもやりましたが、民間企業になじめず小学校教員に転職。昨年61歳で初挑戦した議員生活に入りました。

私の人生を決めたのは、歴史教育の本多公栄先生、党専従を決断させたかみさん、そして子どもの中に飛び込み遊んだり人形劇を見せる喜びを分かち与えてくれた池田公三さんだと、いまになってしみじみ思います。

北大での出会い以来42年。かわらぬ温かい人柄の池田公三さんとツーショット

